

## 「論理文」の時制とモダリティ

有田節子

立命館大学

### 1. はじめに

#### □ 扱う現象

(1). {a. 半分終わったので/b. 半分終わったなら/c. 半分終わったとき}、止めてください。

(2). 中山日出子が突然会社を辞めたら、それは却って、噂を認めたことになる。

#### □ 主張したいこと

1) 論理節の時制は発話時を基準に選択され解釈されうる。

2) 条件文の時制は発話時、主節時とは別の第3の基準時に基づき選択され解釈される。

#### □ 論理文

論理文：条件文、理由文、譲歩文（小泉1987:4）

状況文：目的、様態、付帯状況、時を表す文。（前田2009）

時制形態素の分布状況と副詞節の意味から

副詞節の時間解釈のメカニズムについて考察する。

### 2. 日本語の時制形式と時間解釈

#### □ 日本語の時制形式

日本語の時制形式（タ形と基本形）

タ形：-*ta*, -*da*

基本形：動詞 -*u*, -*ru*、形容詞 -*i*、形容動詞・名詞 -*da*, -*dearu*

#### □ 日本語の時制選択

事態が成立する時間(事象時( $\tau$ ))と基準時(ST)との先後関係

$\tau < ST$ ：タ形       $\tau \geq ST$ ：基本形

基本形の時制選択と述語

a.  $\tau = ST$       b.  $\tau > ST$

stative の場合      eventive の場合

#### □ 複文の時制選択と時間解釈

複文の場合、従属節の時制選択が発話時ではなく、従属節の事象時と主節の事象時（「主節時」と言われる）との間の先後関係によって決まるように見える。（一つ上の節の述語による事象の事象時，荻原 2022）

- (3). a. 今度会ったときに、ゆっくり話しましょう。  
b. 入試が行われる場所の下見をした。

主節時が基準

発話時 (UT)と主節の基準時 (ST<sub>m</sub>) との関係

主文末の時制の時間解釈: ST<sub>m</sub>=UT

従属節の時制の時間解釈: 主節の事象時(τ<sub>m</sub>)を通して解釈される。ST<sub>s</sub>=τ<sub>m</sub>

#### □ 日本語の副詞節と時制

日本語の副詞節には、時制形式 (タ形、基本形) が現れない節、またはどちらか一方しか現れない節、どちらも現れるが時間解釈に違いがない節、さらにどちらも現れ、かつ時間解釈に違いがある節がある。

- (4). お酒を飲みながら話をした。  
(5). 雨が降れば試合は中止になるだろう。  
(6). 大学に進学するために塾に通った。  
(7). 太郎が部屋に入ると、花子が眠っていた。  
(8). 帽子をかぶったまま挨拶をした。  
(9). 読んだら貸してね。  
(10). 太郎が { i. 立ち上がる / ii. 立ち上がった } と同時に、皆が一斉に文句を言い始めた。  
(11). 大学に { i. 行くとき / ii. 行ったとき } サークル活動に誘われた。  
(12). { i. 明日休むので / ii. 昨日休んだので } 今日は遅くまで仕事する。

#### □ 副詞節の時間解釈の問題

##### ● 視点の原理 (三原1992:22)

- a. 主節・従属節時制形式が同一時制形式の組み合わせとなる時、従属節時制形式は発話時視点によって決定される。  
b. 主節・従属節時制形式が異なる時制形式の組み合わせとなる時、従属節時制形式は主節時視点によって決定される。

##### ● 階層性 (吉本1993:149-150)

絶対テンス、すなわち発話時を基準としたテンスはC類に属し、相対テンス、すなわち主節時を基準としたテンスはB類に属す。

従属節がどの統語的階層に属しているかが発話時基準か主節時基準かに対応する。

##### ● 視点の原理による説明の問題

- (13) 大学に { a. 行くとき / b. 行ったとき } サークル活動に誘われた。  
(14) 仕事を { a. 休むので / b. 休んだので } 上司に事情を説明した。

トキ節もノデ節もタ形は発話時以前に解釈される一方、トキ節の基本形は発話時以前の解釈で、ノデ節の基本形は発話時以後の解釈になる。

「視点の原理」はトキ節とノデ節に見られる解釈の違いの適用外である。

● 階層性による説明の問題

B類とされる条件節や譲歩節の述語のテイ（ル）形が主節述語の事象時とは独立に発話時以前の解釈になることがある。同様の解釈はトキ節では難しい。

(15)仕事を休んでいるとき、上司に{a. 報告する／b. 報告した}よ。

(16)仕事を {a. 休んでいれば/b. 休んでいたら} 上司に {報告する／報告した} さ。

(17)仕事を休んでいても、上司には {a. 報告しない／b. 報告しなかった} よ

3 時制から見た論理節と状況節

□ 複文の時制と時間解釈

発話時：UT

主節の基準時： $ST_m$

主節の事象時： $\tau_m$

従属節の基準時： $ST_s$

従属節の事象時： $\tau_s$

(3a) 今度会ったときに、ゆっくり話す。

主節： $\tau_m > ST_m = UT$  発話時以後

従属節： $\tau_s < ST_s = \tau_m \rightarrow \tau_s > UT$  発話時以後

(3b) 入試が行われる場所の下見をした。

主節： $\tau_m < ST_m = UT$  発話時以前

従属節： $\tau_s > ST_s = \tau_m \rightarrow \tau_s < UT$  発話時以前

□ モダリティの時制と時間解釈（中村 2001）

前接述語（p）の時制と後接モダリティ（f）の時制

Epistemic Modality, Prioritizing Modality (Portner 2009)

モダリティに前接する述語の時制とモダリティ述語の時制

・前接述語の時制選択と時間解釈

・前接述語事象の事象時： $\tau_p$ 、前接述語事象の基準時を  $ST_p$

後続するモダリティ述語の事象時を  $\tau_f$ 、基準時を  $ST_f$  とする

→未来時の判断を表すことはない（中村 2001:97）

● Epistemic Modality 複合述語文の時間解釈

前接述語の時制選択

提出した{はずだ/かもしれない}  $\tau_p < ST_p = \tau_f$

提出する{はずだ/かもしれない}  $\tau_p > ST_p = \tau_f$

後接モダリティの時間解釈

はずだ/かもしれない  $\tau_f = ST_f = UT$

はずだった/かもしれなかった  $\tau_f < ST_f = UT$

● Prioritizing Modality 複合述語文の時間解釈

前接述語の時制が固定  $\tau_p > \tau_f$

提出したほうがいい  $\tau_p > \tau_f$

提出するべきだ  $\tau_p > \tau_f$

後接モダリティの時間解釈

ほうがよい/べきだ  $\tau_f = ST_f = UT$

ほうがよかった/べきだった  $\tau_f < ST_f = UT$

□ 論理節の時制選択と時間解釈

(18) 半分終わった {ので/から/のだから/のなら}、明日にはすべて終わる。

$\tau_s < ST_s = UT$

$\tau_m > ST_m = UT$

(19) 半分終わった {ので/から/のだから/のなら}、明日にはすべて終わるはずだ。

$\tau_s < ST_s = UT$

$\tau_{mp} > \tau_{mf} = ST_{mf} = UT$

(20) 半分終わった {ので/から/のだから/のなら}、止めた方がいい。

$\tau_s < ST_s = UT$

$\tau_{mp} > \tau_{mf} = ST_{mf} = UT$

(21) 仕事を休む {ので/から}、上司に事情を説明した。

$\tau_s > ST_s (=UT)$

$\tau_m < ST_m = UT$

(22) 仕事を休む {のだから/のなら} 上司に事情を説明したはずだ。

$\tau_s > ST_s (=UT)$

$\tau_{mp} < \tau_{mf} = ST_{mf} = UT$

(23) 仕事を休む {ので/から}、上司に事情を説明しないとけなかった。

$\tau_s > ST_s (=UT)$

$\tau_{mp} > \tau_{mf} < ST_{mf} = UT$

理由節時制は、主節の事象時に関わらず、その基準時は発話時と同時でありうる。

□ 時間節の時制選択と時間解釈

時間節：トキ節

トキ節の時制形式が主節事象時と相対的に解釈される場合

(24) 大学に行くとき、サークル活動に誘われた。

(25) 大学に行ったとき、部室に寄るよ。

トキ節が主節事象時と「同時」に解釈される場合（“when 解釈” (Oshima 2011), 「時間的場面」 (船橋 2006) )

(26) 大学に行ったとき、サークル活動に誘われた。

(27) 大学に行くとき、部室に寄るよ。

(28) ヒロシは家を出た時、忘れ物に気がついた。

(29) ヒロシはワイングラスに口をつけるとき、何かつぶやくだろう。(Oshima 2011)

トキ節時制は、主節事象時とは独立に解釈されることはない。

□ 問題の現象 (1)

命令・依頼表現は Prioritizing Modality と同様の扱い

主節の事象時： $\tau_{mp}$                       主節のモダリティ時： $\tau_{mf}$

(1a) 半分終わったので、止めてください。

$$\tau_s < ST_s = UT \quad \tau_{mp} > \tau_{mf} = UT$$

(1b) 半分終わったとき、止めてください。

$$\tau_s < ST_s = \tau_{mp} \quad \tau_{mp} > \tau_{mf} = UT$$

(30) 半分終わっていたとき、止めてください。 発話時以前の解釈も可能

三原・濱田(1996)の以下の例も発話時以前の解釈が可能で、三原・濱田(1996)では「たら」で置き換えが可能な条件の用法として取り上げられている。Oshima(2011)でも、条件の用法として別に扱うべきことが指摘されている。

(31) 関東工場にも部品がなかったときは、修理に少なくとも3ヶ月かかります。

(32) 太郎も都合が悪かったときは、どうする？

いずれも状態性述語のタ形。動態述語のタ形が現在時制文のトキ節に現れた場合には、発話時以前の解釈になることはない。

トキの when 用法は、主節と「同時」解釈なので、「動態述語のテイタ形+トキ」は、過去に成立したことの影響が主節事象時まで続いていることを表すことになる。

→トキ節の意味が条件(論理)に近づくと、時間解釈も論理節に近くなる。

4 「原因」「結果」「理由」の連体修飾節の時制解釈 (有田 2021a)

□ 「原因」「結果」「理由」を被修飾名詞とする連体修飾節

「相対補充用法」と「内容補充用法」を持つ。(「独立型」丹羽 2013)

基本形・タ形の両方が現れる。

事故が起きた{原因・結果・理由}、事故を起こす{原因・結果・理由}

但し、[基本形+結果]は、基本的に、「内容補充用法」

論理的関係を表すという点では「論理節」だが、時間解釈の面ではどうか？

□ 結果節と原因節

結果節ではタ形に大きく傾き、原因節では基本形に傾く。

タ形をとる結果節は「相対補充用法」になる傾向にあるのに対し、基本形をとる結果節は「内容補充用法」になる。

原因節では基本形・タ形の区別が用法の違いに対応していない。

- (33)14年間努力してきた結果がこれだった。(相対補充用法)
- (34)しかし学長が重ねて窮状を訴えた結果、中村先生は曲げて承諾して下さった。  
(LBb3\_00063) (相対補充用法)
- (35)その消極的作戦が、前線における北条の各部隊を苦しめる結果になった。  
(LBb9\_00067) (内容補充用法)
- (36)また北朝鮮に対して、経済封鎖など、どういう風にいけば、家族会などが納得する結果が得られるのですか？(OC05\_02435) (補足語修飾用法)
- (37)小針が秀瀬と反目し合うようになった原因については、さまざまな噂が取り沙汰された。(LBa2\_00003) (相対補充用法)
- (38)小さなかゆみでも、毛玉だらけにしてしまう原因になりかねません。ボディー・チェックを忘れずに！(LBa6\_00006) (相対補充用法)
- (39)てきぱきと一所懸命できる、けれどもあまり評価されないという原因はどこにあるのでしょうか。(LBs1\_00024) (内容補充用法)
- (40)その他、よくみる原因として、例えば笑い方の癖による鼻背のしわや、うつぶせ寝によるしわなどがある。(PB54\_00049) (補足語修飾用法)

#### □ 「原因」「結果」の連体修飾節の時間的性質

原因節と結果節のタ形は、[原因]または[結果]の相対補充用法で、発話時を基準とした過去時の解釈が基本である

論理節(カラ節やノデ節など)の性質と共通し、時間節(トキ節)とは異なる。

基本形原因節の例の大半は原因の相対補充用法で、その時間解釈はタ形の場合と違って、主節時に依存する。

時間節と共通する性質である。

基本形結果節の場合は一部の例外を除いて結果として生じる事態を命題として表す内容補充用法であり、時間解釈はなされない。

#### □ 結果節の時間解釈

タ形をとる相対補充結果節の場合、タ形の時間解釈は基本的には過去時の解釈、つまり、発話時が基準となる。

法則的・一般的あるいは仮定的因果関係を表す文脈におかれた場合はその文脈に解釈が依存する。

「結果」の持つ因果的意味

#### □ 原因節の時間解釈

原因節の用法は、タ形節だけでなく基本形節も相対補充用法に大きく傾く。

原因節の相対補充用法は、タ形節が基本的に過去時、つまり発話時が基準となる。

「原因」の持つ因果的意味

基本形節による相対補充用法は主節の時間解釈に依存している。

時間を表す相対補充節と共通する性質

□ 「理由」

理由節のタ形は基本的に発話時を基準とした解釈

文全体が一般的・法則的因果関係、仮定的因果関係を表す文脈では、それら高次の文脈に依存した解釈になる

理由節の基本形は、基本形原因節同様、主節の時間解釈に依存する。

理由節は内容補充用法が原因節と比べて多い。（「という」の出現数が多い）

□ 「原因」と「理由」

原因節と理由節では相対補充を表す基本形節に出現する動詞にも顕著な違いが見られる。

「P スル理由」における「理由」は、事態 P を引き起こす〈原因〉関係を表すのではなく、事態 P に関与する主体の判断を表すとするのが妥当

- 「理由」節は、事態間の相対的時間関係を前提とした因果関係というよりも、事態と評価者（意志動詞の主体）との関係を表す。

5 条件節の時間解釈とモダリティ

□ 条件文の時間解釈の問題

(2) 中山日出子が突然会社を辞めたら、それは却って、噂を認めたことになる。（赤川次郎『本日は悲劇なり』国立国語研究所「現代書き言葉均衡コーパス」）

「辞めたら」は未来時の解釈、「認めた」も未来時の解釈。

「認めた」 → 「辞めた」という時間的先後関係

「辞めたら」の時間解釈と相対的先後関係は、発話時を基準にしても主節時を基準にしても説明ができない。

ト節の基本形と時間解釈

□ 条件節の基準時 (ST<sub>s</sub>)による説明 (有田 2021b)

- 条件文（条件節、主節）の時制選択は、条件節の基準時 (ST<sub>s</sub>) との先後関係により決まる。

主節のタ形： $\tau_m < ST_s$       主節の基本形： $\tau_m \geq ST_s$

- 条件文の時間解釈は、条件節の基準時 (ST<sub>s</sub>) と発話時 (UT) との先後関係により決まる。

ST<sub>s</sub> > UT      ST<sub>s</sub> = UT      ST<sub>s</sub> < UT

ST<sub>s</sub> = UT      反事実世界における発話時の対応時

中山日出子が突然会社を辞めたら、それは却って、噂を認めたことになる。

条件節  $\tau_s = ST_s$  主節のタ形  $\tau_{mp} < ST_s$        $\tau_{mf} = ST_s$       ST<sub>s</sub> > UT

部屋に入ると、帽子を脱いだ。

条件節  $\tau_s = ST_s$  主節のタ形  $\tau_m < ST_s$   $ST_s < UT$

・モダリティ述語の時制は発話時を基準に解釈される。

□ 条件節の基準時と発話時の関係に基づく条件文の用法分類

● 予測的条件文

(41) 明日雨が降れば、試合は中止される。

$\tau_s = ST_s$   $ST_s < \tau_m$   $ST_s > UT$

● 認識的条件文

(42) (昨日日本代表の試合があったけれど、結果はどうだったんだろうか。) もし、日本が勝った (ん) なら、オリンピックに出場できるのだが。

$\tau_s < ST_s$   $\tau_{mp} = ST_s$   $\tau_{mf} = ST_s$   $ST_s = UT$

(43) ピアノを続ける (の) なら、留学したほうがいい。

$\tau_s > ST_s$   $\tau_{mp} > \tau_{mf} = ST_s$   $ST_s = UT$

(44) どうせ謝るなら、あんな遅くまで、連れ回すなよ。

$\tau_s > ST_s$   $\tau_{mp} > \tau_{mf} = ST_s$   $ST_s < UT$

● 反事実的条件文

(45) (昨日の試合に日本代表が負けて、予選リーグ敗退が決定してしまった。) 日本が勝っていたなら、オリンピックに出場できたのに。

$\tau_s < ST_s$   $\tau_{mp} < ST_s$   $\tau_{mf} = ST_s$   $ST_s = UT^*$  UT の反事実世界における対応点

● 総称的条件文 (本発表では扱わない)

(46) 夜爪を切ると親の死に目に会えない。

● 事実的条件文

(47) 部屋に入ったら、女性がうずくまっていた。

$\tau_s = ST_s$   $\tau_m < ST_s$   $ST_s < UT$

□ 条件節のモダリティ (有田 2020, 近刊)

(48) 手伝わないなら、掻き乱さないで。

意志 命令・依頼

(49) A: ふふふ

B: 笑うなら、お前やってみろ。

想定 命令・依頼

主節とは独立に独自のモダリティを持ちうる。

Copley (2008)

a. If John gets sick tomorrow, Mary will be sick then.

metaphysical epistemic

b. If John is sick right now, Mary will be sick tomorrow.

epistemic metaphysical

if 節は独自のモーダルを含む



## 6 まとめ

- 論理節の時制は論理節述語事象の基準時との相対的關係により時制選択がなされ、論理節の基準時と発話時との關係により時間解釈が決まる。
- 条件節は主節とは独立にモダリティを持ちうる。

## 謝辞

本発表は、JSPS 科研費 19H01262, 21H00528, 19H05317 の助成を受けて行った研究の一部である。

## 引用文献

- 有田節子(2020)「条件付き命令・依頼文—日本語条件文のモダリティ制約再考—」田窪行則・野田尚史編『データに基づく日本語のモダリティ研究』pp.143-162.くろしお出版
- 有田節子(2021a) 因果關係と時間—「原因」「結果」を主名詞とする連体修飾節を中心に—。嶋田珠巳・鍛冶広真編著『時間と言語』pp. 167-184. 三省堂.
- 有田節子(2021b) 「時制形式の有無と副詞節のタイプ」庵功雄・田川拓海編『日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す 第2巻 「した」「している」の世界』pp. 23-49. ひつじ書房.
- 有田節子 (近刊)「条件表現とモダリティに関する対照研究—条件付き命令構文を中心に—」
- Copley, Bridget (2008) Temporal Orientation in Conditionals. In: Guéron, J., Lecarme, J. (eds) *Time and Modality. Studies in Natural Language and Linguistic Theory*, vol 75. Springer, Dordrecht.
- 船橋瑞貴 (2006) 「トキ節の解釈に関する語用論的考察」『日本語文法』6-1, 106-121.
- 小泉保 (1987) 「譲歩文について」『言語研究』91,1-14
- 前田直子 (2009)『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』くろしお出版
- 三原健一 (1992)『時制解釈と統語現象』くろしお出版
- 三原健一・濱田美和 (1996) 「連体修飾型副詞節のテンス」『日本語・日本文化研究』6, 31-41.
- 中村ちどり(2001) 『日本語の時間表現』くろしお出版
- 丹羽哲也 (2013) 「連体修飾構造における相対補充と内容補充の關係」『日本語文法』12-2, 79-91.
- 荻原俊幸 (2022) 「時間の副詞節の意味論」関西言語学会第47回大会(2022.6.11-12)シンポジウム「言語の意味研究の現在」ハンドアウト
- Oshima, David Y. (2011) On the interpretation of toki-clauses: beyond the absolute/relative dichotomy. *Journal of East Asian Linguistics* 20, 1–32.
- Portner, Paul (2009) *Modality*. Oxford University Press.
- 田村早苗(2013) 『認識視点と因果—日本語理由表現と時制の研究』くろしお出版
- 吉本啓 (1993) 「日本語の文階層構造と主題・焦点・時制」『言語研究』103, 141-166.